教育心理学教室教官の研究状況報告

研究経過報告 ——'97年秋～'98年秋——

小 嶋 秀 夫

[オランダ人文学・社会科学高等研究所に滞在]

ハーグとレイデンの間に位置する標記の研究所(NIAS, Netherlands Institute for Advanced Study in the Humanities and Social Sciences) に滞在研究員 (Fellow-in-Residence, 1997／98) として招聘を受け，1997年9月から1998年6月までの10か月を過ごした。

そこでは，研究グループHistorical Developmental Psychologyの一員として，人間発達とライフコースに関する17世紀以来の日本の考えと人々の経験，及びその社会的・文化的情況の分析を続けた。研究グループ（2名の歴史家［オランダとアメリカ］と，4名の発達心理学者［オランダ3と日本1名］）内での検討を経て，1998年2月に欧米の歴史家と発達研究者を招いてNIASでコロキアムを開催した："Are We at the End of the Century of the Child?"。私が発表した論文は，そこでの討論と後に行った研究グループ内でのフィードバックを基に改稿して本に載る：History of children and youth in Japan, In W. Koops & M. Zuckerman (Eds.) Are we at the end of the Century of the Child?: Crossroads of cultural history and developmental psychology.

NIASではその他にいくつもの活動を行ったが，完了したのは以下のものである。

Kojima, H. Emotional development and interpersonal relationships in Japanese cultural contexts は，W. Friedlmeier によって独訳され，W. Friedlmeier & M. Holodynski 編の本として Spektrum-Verlagから出る。

Kojima, H. Ethnotheorie historique des soins et de l'éducation des enfants au Japon (H. Norimatsu & R. Blinによる日本語からの仏訳) の最終稿ができ，B. Bril, P. Dasen, & B.Krewer 編の本として Harmattanから出る。

また次の4つの国際シンポジウム等の発表論文を作成した。

Kojima, H. (1998). Images of childhood situated within Japanese concepts of the life course. Paper presented at a symposium on A Historical View on Infantalization of Children at XVth Biennial International Society for the Study of Behavioral Development, Bern, July.

Kojima, H., Miyakawa, J., & Sato, A. (1998). Social support systems among Japanese children: A longitudinal study at a female elementary school. Paper presented at XVth Biennial International Society for the Study of Behavioral Development, Bern, July.

Kojima, H. (1998). Value of children in preindustrial and industrial Japan. Paper presented at the 5th Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences, Tokyo, September.

Kojima, H. (1998). Traditions of childrearing and education today: Japan and the West. Paper presented at Japan-France International Symposium on Education, Société franco-japonaise des Sciences de l'Éducation, Tokyo, September (日本語文と翻訳仏文が日仏教育学会年報大5号に掲載予定)。

NIAS滞在中に，アムステルダム自由大学でのPh.D.学位審査の一端に関与するとともに，外部で次の2つの講演をした。

Japanese concepts of human life and the hereafter, and stages of life in preindustrial and industrial Japan. Guest Lecture at Center for Japanese and Korean Studies, Leiden University, April 24.

Four roles related to the construction of childrearing theories: Past and present. Fachgruppenkolloquim, Psychologie, Universität Konstanz, May 4.

［歴史的・文化的発達研究］

かなり以前に執筆した下記の論文と，1つのコメンタリー論文が現れた。

Kojima, H. (1998). The construction of childrearing theories in early modern to modern Japan. In M. C. D. P. Lyra & J. Valsiner (Eds.), *Construction of psychological processes in interpersonal communication (Child development within culturally structured environments, Vol. 4)* (pp. 13-34). Norwood, NJ: Ablex.

Kojima, H. (1998). Researcher's story told and participants' story still untold: Commentary on Günther. *Culture & Psychology*, 4, 75-80.

早稲田大学人間総合研究センター主催の公開シンポジウム「性とペアレンティング：母性と父性の比較」（オーガナイザー：根ケ山光一教授）において，母性と父性の変遷の発表をした（1998年10月31日）。その内容は早稲田大学の刊行物に現れる予定である。

［テキスト・番組等］

1998年度から全国放送されるようになった放送大学の専門科目（テレビ），発達心理学(98)の主任講師を三宅和夫・北海道医療大学教授と担当した。その印刷教材として，小嶋秀夫・三宅和夫（編著）　発達心理学　放送大学教育振興会，1998を編集するとともに，以下の3つの章を執筆した。現在の発達心理学（pp. 9-19），発達研究の歩み（pp. 20-35），生涯発達の中での老年期（pp. 146-158）。また，4年を経て改訂された心理学史(98)の中で，前回と同じく1つの章を担当した。小嶋秀夫　発達心理学　大山　正・上村保子（編著）改訂心理学史（pp. 190-202）. 放送大学教育振興会，1998。

（1998年11月5日）

研究経過報告（平成8年9月～平成10年8月）

田畑　治

この報告は，2年に一回行うことにしているので今年が当たり年になる。

この一年半は，大きな全国学会（日本心理臨床学会第17回大会）を開催・運営する準備とも重なり，エネルギーをそちらにも充ててしまい，学術的研究や実践研究の活動は十分とはいえない状況であったことを，最初に記しておきたい。

1. カウンセリング過程と精神健康の研究

［著書・編著］

数年前に共同で行っていた臓器移植に関するコーディネーターの養成・教育訓練に関する厚生省科学研究の一貫として計画中であった関係書『コーディネーターのための臓器移植概説』（故・若杉長英（監修）白倉良太・高原史郎・芦刈淳郎（編）日本医学館，1997年）が，故若杉長英先生の一周忌を記念して刊行された。昨年秋に“臓器移植法”が議員立法で成立してから早くも一年経った。臓器不良のために提供者を求めても，十分な数の臓器提供者に満たされず，海外にまで提供者を求めて出かけることが相変わらず続いている。本書は，この意味でもわが国におけるかかる方面への啓発になる教科書として，注目されていくであろう。筆者は，「対人関係の心理学」（Pp. 46-47）を分担した。

クライエント中心療法．大塚義孝（編）『心理面接プラクティス』（至文堂，1998，Pp. 30-41.）

［論　文］

青年期における孫・祖父母関係評価尺度の作成．（星野和実・佐藤朗子・坪井さとみ・橋本　剛・遠藤英俊と共同）．『心理学研究』，1996，Vol. 67（No. 5），Pp. 375-381.

成人と老親の関係と精神的健康に関する研究．平成6年度ジェロントロジー研究助成報告書（財・日本火災福祉財団），1996，Pp. 156-165.

今，思春期のこころの健康はどうなのか（巻頭言）．『こころの健康』（愛知県精神保健福祉協会）第18号，1997.

援助する（to help）ということ（巻頭言）．『心理臨床－名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要』第13巻，Pp. 1-4，1998.

ある妻子殺人・死体遺棄被告人の臨床心理査定（鑑定）－その1．目的・作業仮説・生活史．『心理臨床－名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要』第13巻，Pp. 5-14. 1998.

ある妻子殺人・死体遺棄被告人の臨床心理査定（鑑定）